

実践事例 CSKグループ「CAMP」より

「CAMPがぞくのひづけワークショップ」

「CAMP」(Children's Art Museum & Park)は、新しい学びのスタイル「ワークショップ」を通して、こどもたちの未来を切り開く力をはぐむ「CSKグループ」の社会貢献活動です。現在は、小さなコンピューター「クリケット」を使って動くおもちゃをつくる「CAMPクリケットワークショップ」をはじめ、こどもたちの創造性や表現力を引き出す数々の新しいワークショップを開発するとともに、全国へ普及する活動を展開しています。

そのCAMPが昨年より始めた、「かぞくのひづけワークショップ」が東京で開催されました。

(株)CSKホールディングス
社会貢献推進室大川センター長
北川美宏さんの話



CAMPは、「人がすべて」を経営の基本理念とするCSKグループの社会貢献活動です。5年前に大川センターのある京都からスタートし、この2年間で全国に広げる活動をしてきました。新しい学びのスタイルであるワークショップを通して、次の世代の人材育成に貢献していくことがねらいです。

「かぞくのひづけ」は、絵本作家の駒形克己さんと写真家の広川泰士さんと共同開発したワークショップです。人と人とのつながりは家族が基本ですので、このワークショップをきっかけにして、親と子のかかわりを大切にしていっていただければと考えています。

CAMPの活動については、現在では、博物館や大学のオープンキャンパス、図書館などでこども向けにワークショップを実施しています。

(株)CSKホールディングス
CSKホールディングスを持株会社とするCSKグループは、ITの強みを生かした総合的なサービスプロバイダー企業グループです。

また、私立の小学校と連携して授業カリキュラムの中におけるワークショップの導入について共同研究も進めています。今後は、できるだけ多くのこどもたちにワークショップを提供していくために、私たちの活動に賛同していただける企業や団体を巻き込み、活動をさらに広げていきたいと考えています。

社会貢献推進室CAMP
【東京オフィス】
村田香子さんの話



村田さんは、ワークショップのなかで実際にファシリテーターとして活躍されています。

ワークショップに参加してくれた子たちが、活動を通して仲良くなり、時には肩を組んで帰ることもあります。そのような光景を見ると、とてもうれしくなります。CAMPのワークショップには何度も参加してくれる「リピーター」が多く、最初はあまり表現することが上手ではなかった子が、自分でつくったものを自分の言葉で発表できるようになっていきます。毎回感想を書いても

CAMPワークショップについて、担当の皆さんにお話を伺いました。



① まずは、家族で撮影会！

「1日の流れ」
を写真で紹介
します。

参加された
ご家族の感想



② 写真をパソコンで編集。

「家族全員で写真を撮りあうのが新鮮で楽しかったです。とても素晴らしい企画でした。ありがとうございました。」



③ できた写真集を手に感想を。

「世界で一つだけの家族のアルバムができました。いい思い出になりました。また、ぜひ参加したいと思います。」

らうのですが、「学校とは違うことができ、おもしろかった」「もっとやりたかった。また参加したい」という内容が多く、ワークショップをやっていてよかったなと思

社会貢献推進室CAMP【東京オフィス】
石川敬子さんの話



ファシリテーターとして活躍されている石川さんには、学校教育との連携について話を伺いました。

学校教育の中に、私たちCAMPのワークショップを取り入れてもらいたいという希望はあります。ただ、カリキュラムとの関連や何の教科にするのか、また評価はどうするのか、といった課題はあります。ですから、お互いにすり寄せあいながら、いいものをつくっていただければと考えています。今年度は教育委員会の方と協力して都内の小学校の課外授業でワークショップを開催する予定です。今後学校教育とのつながりが、さらに深まっていけばと考えています。

「CAMPクリケットワークショップ」
が開催されます。

平成 18年 8月 4日(金) 5日(土)
秋葉原ダイビル内

見学を御希望の方は、 join@camp-k.com
又は、電話03 (6438) 3640 (CAMP東京オフィス)
までお問い合わせください。

「CAMP」のホームページ <http://www.camp-k.com>